三十六歌仙の世界　続―『俊成三十六人歌合』解読―

笹川博司 著

四六判　256頁　3,080円
ISBN 978-4-7599-2440-4　(2022.10)

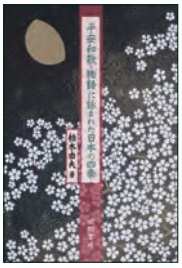
前著『三十六歌仙の世界』に続き架蔵資料の歌仙絵（カラー）の紹介及び『俊成三十六人歌合』所収歌108首の口語訳と詳細な解説を付す。

三十六歌仙の世界―公任『三十六人撰』解読―

笹川博司 著

四六判　260頁　3,080円
ISBN 978-4-7599-2340-7　(2020.11)

大阪大谷大学図書館蔵『三十六歌仙絵巻』に描かれた歌仙絵（カラー）の紹介と、公任が撰んだ『三十六人撰』所収の和歌150首についての口語訳を示し、解説を加えた。



平安和歌・物語に詠まれた日本の四季

柏木由夫 著

四六判　242頁　2,750円
ISBN 978-4-7599-2409-1　(2021.10)

四季の様々な事象（景物・行事）が、平安和歌を中心に物語・日記などを含めて、どのように詠まれ記述されていたのか。豊富なカラー写真とともに伝統美の世界を楽しむ。

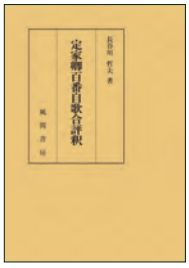
私家集全釈叢書 41

奈良御集・仁和御集・寛平御集全釈

笹川博司 著

A5判　192頁　6,600円
ISBN 978-4-7599-2352-0　(2020.12)

「奈良の帝」の御歌を収めた「奈良御集」、光孝天皇御製を収めた「仁和御集」、宇多天皇御製を集めた「寛平御集」。冷泉家本を底本とし、詳密な注釈を施す。



定家卿百番自歌合評釈

長谷川哲夫 著

A5判　332頁　9,900円
ISBN 978-4-7599-2411-4　(2021.10)

『定家卿百番自歌合』は、藤原定家が自詠200首を選び百番の歌合形式に仕立てた撰歌集であり、定家の歌の精髄ともされる。本書は全200首に詳密な注釈と批評を施す。

平安文学の謎解き―物語・日記・和歌―

後藤祥子 著

A5判　268頁　3,850円
ISBN 978-4-7599-2293-6　(2019.10)

長年にわたり平安文学および和歌史の周辺において、独自の視点から問題を提起し続けた著者による珠玉の論考を集成。二条后物語、蜻蛉日記、公任卿集などの論を収録。

成蹊大学人文叢書 18

『源氏物語』と日本文学史

成蹊大学文学部学会 編
木谷眞理子・吉田幹生 責任編集

四六判　276頁　2,200円
ISBN 978-4-7599-2371-1　(2021.3)

『源氏物語』とは何だったのか?　平安時代の制度や習慣、日本語表現を説明分析し、作品が後代の人々に与えた影響を紹介。内容理解と作品享受の両面からこの謎に迫る。

ISBNの右の(　)内は発行年月、表示価格は消費税率 10%を加えた定価です。

令和３年度　文化功労者顕彰おめでとうございます！

山口仲美著作集

全８巻

未開の研究分野に挑戦し続けた
日本語学者　山口仲美の軌跡！

古典の文体・コミュニケーション研究、
オノマトペの歴史研究では、独壇場！

山口仲美（やまぐち　なかみ）

1943年静岡県生まれ。お茶の水女子大学卒業。
東京大学大学院修士課程修了。文学博士。
現在　埼玉大学名誉教授。
専門は日本語学（日本語史・古典の文体・オノマトペの歴史）。
2008年紫綬褒章、2016年瑞宝中綬章受章。
2021年文化功労者に選出。
専門分野関係のテレビ・ラジオ番組にも多数出演。

●A５判・上製カバー装　●各巻平均665頁　●総頁5,316頁
●各巻 定価 6,380円（税込）　●揃定価 51,040円（税込）（分売可）
●内容案内をご希望の方は、直接弊社までお申し込みください。

風間書房　〒101-0051　東京都千代田区神田神保町1-34
電話 03-3291-5729　FAX 03-3291-5757

全８巻の構成

1 言葉から迫る平安文学 I 源氏物語	ISBN 978-4-7599-2237-0	614頁 (2018.10)
2 言葉から迫る平安文学 2 仮名作品	ISBN 978-4-7599-2238-7	614頁 (2018.10)
3 言葉から迫る平安文学 3 説話・今昔物語集	ISBN 978-4-7599-2258-5	548頁 (2018.12)
4 日本語の歴史・古典 通史・個別史・日本語の古典	ISBN 978-4-7599-2284-4	632頁 (2019.5)
5 オノマトペの歴史 I その種々相と史的推移・「おべんちゃら」などの語史	ISBN 978-4-7599-2294-3	722頁 (2019.10)
6 オノマトペの歴史 2 ちんちん千鳥のなく声は・犬は「びよ」と鳴いていた	ISBN 978-4-7599-2297-4	616頁 (2019.12)
7 現代語の諸相 I 若者言葉・ネーミング・テレビの言葉ほか	ISBN 978-4-7599-2328-5	830頁 (2020.5)
8 現代語の諸相 2 言葉の探検・コミュニケーション実話	ISBN 978-4-7599-2335-3	740頁 (2020.9)

著作集全巻の完結にあたって

予定通り、著作集全巻が二〇二〇年秋に完成した。途中で、疲れて顎を出してしまったこともあるが、ともかく予定通りに刊行できた。私を脅かす膵臓がんも暴れることなく静かに著作集の刊行を見守ってくれた。夢のように思える。

著作集のような全貌の見渡せる著作物を作ると、自分がどんなスタンスをとって研究を進めてきたのかを客観的に俯瞰できるようになる。自分には、次のような二つの傾向が顕著だったように思う。

第一に、従来の国語学では研究されていないテーマを研究対象にする傾向である。古典の文体研究、オノマトペの研究は、その典型。ほとんど研究されていない分野であった。その他、古典におけるコミュニケーション研究、あだ名や売薬名といった命名の研究も、ほとんど注目されていなかった。未開拓分野の研究は、自分で問題を見つけ、解決する方法を考え、調査し、解明していく必要がある。実は、それが、私にとっては、このうえなくワクワクすることだったのである。

第二の自分の傾向は、論文だけではなく、一般向けの発信も行なうことである。論文を書いてみると、一般の人にも知ってほしいと思うような面白い事実が明らかになることがある。すると、私は、論文集の形ではなく、リライトして一般向けの本にして刊行する。『ちんちん千鳥のなく声は―日本人が聴いた鳥の声―』(大修館書店)、『犬は「びよ」と鳴いていた―日本語は擬音語・擬態語が面白い―』(光文社)、『日本語の歴史』(岩波書店)は、その産物。むろん、これらの本も著作集に収めてある。

著作集全巻は、研究者のみならず、一般の方々にも知ってほしい、楽しんでほしい、という気持ちから編まれている。どうかあなたも手に取って気に入った頁から読み始めていただきたい。

二〇二〇年八月一〇日

山口仲美

1 言葉から迫る平安文学1

二〇一八年一〇月刊
六一四頁

著作集1・2・3『言葉から迫る平安文学』三巻は、言葉や文体、表現やコミュニケーションといった言語学的な立場から平安文学の諸問題を解明する。

第一巻のテーマは『源氏物語』。三部から成る。

Ⅰ部は、「『源氏物語』男と女のコミュニケーション」。『源氏物語』に登場する男と女は、どんなコミュニケーションをとっていたのか？　現代に応用できるコミュニケーション論は、きっとあなたの役に立つ。

Ⅱ部は、「『源氏物語』の言葉と文体」。比喩や象徴詞(＝オノマトペ)や形容語などに注目して、『源氏物語』独自の問題を解明した論を収録。

Ⅲ部は、「文章・文体研究の軌跡と展望」。『言葉から迫る平安文学』三巻に収録した論文に一貫する著者の立場は、語学的文体論。そうした文章・文体研究についての解説と展望を収録。この分野の草創期を知る上でも重要な論説。

2 言葉から迫る平安文学2

二〇一八年一〇月刊
六一四頁

著作集1・2・3『言葉から迫る平安文学』三巻は、言葉や文体、表現やコミュニケーションといった言語学的な立場から平安文学の諸問題を解明する。

第二巻のテーマは、「仮名作品」。平安時代の仮名で書かれた『源氏物語』以外の日記・随筆・物語を対象としている。四部から成る。Ⅰ部は、導入部的な論。

Ⅱ部は、「物語と日記の言葉と文体」。平安文学作品全体の文体にかかわる問題と、竹取物語・和泉式部日記といった個別の作品の言葉と文体にかかわる問題をあざやかに解明。

Ⅲ部は、「『枕草子』新しい読み方」。『枕草子』をマナー集として読むという新しい読み方を提示し、『枕草子』の魅力を味わう。

Ⅳ部は、「研究余滴」。仮名文学作品を読んでいて、疑問に思ったこと、感動したこと、主張したくなったことなどを、エッセイ風にまとめたものを収録。

3 言葉から迫る平安文学3

二〇一八年一二月刊
五四八頁

著作集1・2・3『言葉から迫る平安文学』三巻は、言葉や文体、表現やコミュニケーションといった言語学的な立場から平安文学の諸問題を解明する。

第三巻のテーマは、「説話・今昔物語集」。説話文学全般およびその中で傑出している『今昔物語集』を対象に、言葉や文体あるいは表現方法を追究した巻。三部から成る。

Ⅰ部は、「説話文学の言葉と文体」。直喩法などの表現技法に的を絞って、従来とは違った出典文献との比較という方法で手堅く『今昔物語集』の文体に迫った論などを収録。

Ⅱ部は、「『今昔物語集』の表現方法」。『今昔物語集』の表現方法に着目し、読者を魅了してやまない表現方法の秘密を明らかに。

Ⅲ部は、「『今昔物語集』にみる生きる力」。読者に勇気と生きる力を与えてくれる話をセレクトし、原文・現代語訳・解説を行ない、『今昔物語集』の持つエネルギーをあぶりだす。

4 日本語の歴史・古典

二〇一九年五月刊
六三二頁

著作集4『日本語の歴史・古典』は、日本語の史的推移を追究した著書や論文を収録したもの。

Ⅰ部は、「日本語の歴史―通史―」。日本語はどんなふうに歩んで、現代にいたるのか？　日本語の将来を担うすべての人々にむけて、その史的推移をわかりやすく解説。

Ⅱ部は、「日本語の歴史―個別史―」。日本語を文体、語彙、命名、翻訳語という個別的な観点からクローズアップして、その史的推移を解明。日本人の感覚・感情のあり方、その時代の志向などを浮き彫りにする。

Ⅲ部は、「日本語の古典」。言葉や表現といった今までとは違った日本語学的な切り口から、古典作品を通史的に取り上げ、その魅力を解き明かす。

この巻は、遠い昔の日本人の熱い血と切なる思いをお伝えできることを願って執筆されている。

5 オノマトペの歴史1

二〇一九年一〇月刊
七二二頁

著作集5・6『オノマトペの歴史』二巻は、オノマトペ（＝擬音語・擬態語）のさまざまな性質や史的推移を明らかにした論文やエッセイを収録。

Ⅰ部は、「オノマトペの種々相」。『源氏物語』や『今昔物語集』、狂言やコミックなど作品別・ジャンル別にとらえた時に顕著に現われるオノマトペの特色・機能を解明。研究のエキスをぎゅっと詰めこんだ二〇のコラムも、おすすめ。

Ⅱ部は、「オノマトペの史的推移」。語彙・語音構造・意味・語法などの面からオノマトペの史的推移を追究。男女の泣き方を表すオノマトペ、動物の声を写す擬音語、楽器の音を表す擬音語など、興味津々の史的推移が解き明かされる。

Ⅲ部は、「『おべんちゃら』などの語史」。「いちゃもん」「おべんちゃら」「どんぶり」「パチンコ」などオノマトペにルーツを持つと思われる言葉を対象に、その語史を追究。びっくりするような言葉のルーツが明らかに。

6 オノマトペの歴史2

二〇一九年一二月刊
六一六頁

著作集6『オノマトペの歴史2』は、オノマトペ（＝擬音語・擬態語）のうち、鳥の鳴き声や獣の声を写す言葉の推移の解明に特化した巻。

Ⅰ部は、「ちんちん千鳥のなく声は」。カラスやウグイスなど一二種類の鳥の鳴き声を写す擬音語の歴史を辿る。現代人が予想もしなかったような鳴き声から、その時代の人々の暮らしや民話・民間信仰まで解明されてゆく。

Ⅱ部は、「犬は『びよ』と鳴いていた」。時代とともに推移する擬音語・擬態語の一般的な性格を明らかにし、犬や猫、牛などの獣の声の変化とその原因を追究。日本人独特の感性と文化が光る予想外で楽しい話がいっぱい。

Ⅲ部は、「オノマトペ研究余滴&エッセイ」。妖しげな言葉、「ちんちんかもかも」はどこから出て来た言葉？「ひゅうどろどろ」は、なぜお化けの出る合図に？　オノマトペがあるからこそ可能になる豊かな日本語の世界がここに。

7 現代語の諸相1

二〇二〇年五月刊
八三〇頁

著作集7『現代語の諸相1』は、若者言葉・あだ名・広告表現・テレビの言葉などの現代語をテーマにした著書・論文を中心としている。

Ⅰ部は、「若者言葉に耳をすませば」。若者言葉はどんな特質を持っているのか？　本音全開の座談会を中心に、若者言葉を創りだす方式・特色を実証的に追究していく。

Ⅱ部は、「ネーミングと広告」。命名行為の秘密を解くカギの詰まった「あだ名」。傑作な「あだ名」の条件とは？　また、新聞・ラジオ・テレビにおける広告表現の推移も解明。

Ⅲ部は、「テレビの言葉」。刻々と変わりゆく言葉の先端を視聴者の立場とテレビを作る立場からとらえている。どうかあなたもテレビで出題された問題を解いていただきたい。

Ⅳ部は、「現代語の問題&エッセイ」。日本語教育や敬語表現などに関する論を収録。滅入っている人を元気にさせるのは「言葉の力」。そんなエッセイも最後に収めておいた。

8 現代語の諸相2

二〇二〇年九月刊
七四〇頁

著作集8『現代語の諸相2』は、ユニークな言葉、中国人や医者とのコミュニケーションをとりあげ、エッセイタッチで書いた単行本を収録している。

Ⅰ部は、「言葉の探検」。ドキッとするような七二の言葉や表現をとりあげ、その特性を解明。冒頭に付いている問題を解いてから本文に読み進むと、論旨が一層明快に。

Ⅱ部は、「言葉の先生、北京を行く」。中国人の大学教師・リーさんを中心に、彼らのコミュニケーション術やその能力の高さにたじたじとなる話を収録。

Ⅲ部は、「大学教授がガンになってわかったこと」。命に係わる選択を、どのようなコミュニケーションで解決したのか。納得のいく治療を受けるための患者の心得を伝授。

Ⅳ部は、「身辺エッセイ&経歴」。身の回りで起きた出来事、私の出会ったステキな先生、日々の思いなどを綴る。最後に、著者のこれまでの歩みを網羅した経歴を収めた。

未開の研究分野に挑戦し続けた
日本語学者　山口仲美の軌跡！

古典の文体・コミュニケーション研究、
オノマトペの歴史研究では、独壇場！

源氏物語注釈 ■全十一巻

最新の研究成果に基づき源氏物語を読解。当時の言語事実による実証的な本文研究・校異・注釈を提示。源氏物語注釈総検索CDを付し、ここに全巻完結！

一	桐壺 帚木	山崎良幸・和田明美 共著	A5判 四二四頁 一五四〇〇円	(1999.7)
二	空蟬 夕顔 若紫	山崎良幸・和田明美 共著	A5判 四三二頁 一五四〇〇円	(2000.12)
三	末摘花 紅葉賀 花宴 葵 賢木 花散里	山崎良幸・和田明美・梅野きみ子 共著	A5判 四九六頁 一五四〇〇円	(2002.12)
四	須磨 明石 澪標 蓬生 関屋 絵合 松風	山崎良幸・和田明美・梅野きみ子 共著	A5判 四七六頁 一五四〇〇円	(2003.12)
五	薄雲 朝顔 少女 玉鬘 初音 胡蝶	山崎良幸・和田明美・梅野きみ子・熊谷由美子・山崎和子 共著	A5判 四四八頁 一五四〇〇円	(2004.12)
六	螢 常夏 篝火 野分 行幸 藤袴 真木柱 梅枝 藤裏葉	山崎良幸・和田明美・梅野きみ子・熊谷由美子・山崎和子・堀尾香代子 共著	A5判 四七四頁 一五四〇〇円	(2006.3)
七	若菜上 若菜下	梅野きみ子・乾 澄子・嘉藤久美子・山崎和子 共著	A5判 五五八頁 一五四〇〇円	(2009.5)
八	柏木 横笛 鈴虫 夕霧 御法 幻	梅野きみ子・乾 澄子・嘉藤久美子・田尻紀子・宮田 光・山崎和子 共著	A5判 四七四頁 一五四〇〇円	(2010.12)
九	匂兵部卿 紅梅 竹河 橋姫 椎本 総角	梅野きみ子・嘉藤久美子・宮田 光・山崎和子 共著	A5判 七〇六頁 一五四〇〇円	(2012.10)
十	早蕨 宿木 東屋	梅野きみ子・岡本美和子・嘉藤久美子・佐藤厚子 共著	A5判 五二八頁 一五四〇〇円	(2014.10)
十一	浮舟 蜻蛉 手習 夢浮橋（総検索CD付）	梅野きみ子・乾 澄子・岡本美和子・嘉藤久美子・田尻紀子・宮田 光・山崎和子 共著	A5判 九一六頁 二三〇〇〇円	(2018.5)

一巻～十巻　各巻 定価 一五、四〇〇円（税込）
十一巻（総検索CD付）定価 二三、〇〇〇円（税込）
A5判・上製函入　揃定価 一七六、〇〇〇円（税込）・分売可

十一巻　総検索CD

『源氏物語注釈』総検索CDは、『源氏物語注釈』全11巻に含まれる文字列を検索可能にする索引機能を提供しております。検索した語句が『源氏物語注釈』のどの巻・どの箇所にあるかを把握することができます。総検索CDには、検索・表示を実行するアプリケーションの例としてサクラエディタを収録。

動作環境：Windows7、Windows8.1、Windows10

Microsoftの正式サポートが終了しているVersionのWindows OSでの動作は保障しておりません。Windows以外の環境での使用については、CD内の説明書をご覧ください。

風間書房

2022年度 中古文学会秋季大会
【書籍注文書】

書　名	冊 数	種 別	公費書類		
		公費・私費	見積書	納品書	請求書
		公費・私費	見積書	納品書	請求書
		公費・私費	見積書	納品書	請求書
		公費・私費	見積書	納品書	請求書
		公費・私費	見積書	納品書	請求書

公費書類の宛名：

公費書類の日付：

お名前：　　☎

〒

ご住所：

◆ご注文は、メール（pub@kazamashobo.co.jp）または FAX にて承ります。
FAX をご使用の際は、本用紙をお使いください。
メールでのご注文の場合は、件名または本文に「2022年度 中古文学会春季大会」の旨お書きください。
◆学会員限定で、全品２割引で販売いたします。
◆本チラシに掲載されていない書目については、2021年版 弊社図書目録および弊社ホームページをご覧ください。こちらも２割引で販売いたします。
◆送料は弊社で負担いたします。
◆お支払い方法については、振替用紙を同封いたします。

風間書房
〒101-0051　東京都千代田区神田神保町1-34
電話 03-3291-5729　FAX 03-3291-5757　振替 00110-5-1853
https://www.kazamashobo.co.jp　E-mail pub@kazamashobo.co.jp

2022.9